



〔杉並区立杉並芸術会館〕

座・高円寺は杉並区の公立劇場です。

演劇にがっつり向き合う2年間

座・高円寺

劇場創造アカデミー

ご案内と募集要項

2024

Za-Koenji Public Theatre / Creative Theatre Academy

演技コース・舞台演出コース・劇場環境コース（全日制／2年制）

2023年12月10日発行

目次

ようこそ劇場創造アカデミーへ	2
カリキュラム・ディレクターからごあいさつ	3
コース紹介	4
カリキュラム.....	5
1年目の主なカリキュラム	6
2年目の主なカリキュラム	8
主な講師.....	10
修了生の活動.....	12
修了生からのメッセージ	13
募集要項.....	14



2022年修了上演 エドワード・ボンド作『戦争戯曲集』より

『缶詰族』 Photo by 梁丞佑

ようこそ劇場創造アカデミーへ

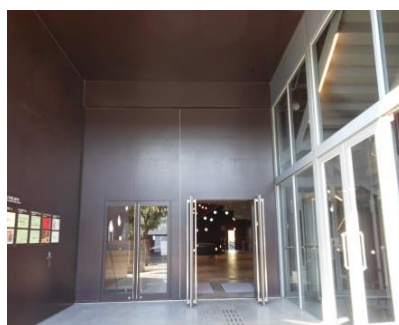
劇場で、生きる。

世界中の才能が集まる
刺激と魅力と才能の磁場
高円寺で、演劇をきわめる！



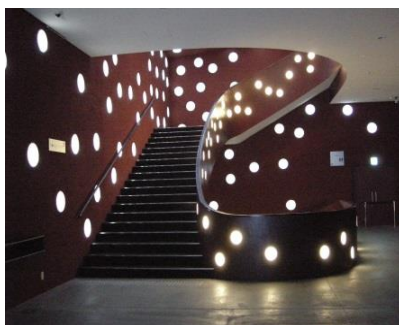
劇場の未来へ

劇場創造アカデミーは、2009年に東京・杉並区の公立劇場、座・高円寺が開設した、未来に向けた「劇場人」の育成を目的とする2年制の演劇研修所です。毎日劇場に通いながら、演劇について「知り、考え、実践する」新しいカタチのカリキュラムを実施しています。



総合的な知識から応用や専門性の高いカリキュラムまで

研修1年目は、全員が〈実技〉〈講義〉〈演習〉の共通カリキュラムによる研修をおこない、劇場と演劇表現についての総合的な知識と経験を身につけます。2年目は、1年目のカリキュラムを応用した研修や、演技・演出・劇場環境の各コース別の専門性を配慮して構成されたカリキュラムによる研修をおこないます。



街の中にある公共劇場ならではの実践的な機会

劇場と地域をつなぐ事業（高円寺阿波おどり、びっくり大道芸、高円寺演芸まつり、座の市）に参加して、イベント運営の方法やプロジェクトマネジメントについて学びます。座・高円寺で上演されるさまざまな舞台芸術を観劇できるほか、研修2年目の最後には、自ら同じ舞台にたって、修了上演を行うなど、他に類を見ない劇場ならではの経験を積むことができる研修所です。



修了後のバックアップ

修了生には、各地の劇場への就業への協力、劇団やプロダクションへの紹介を行います。また劇団やユニット結成へのアドバイス、助成金関連の勉強会、またステップアップのためのアカデミー授業の単科受講など、修了後も長期的なバックアップを継続しています。また主催事業など座・高円寺の舞台への出演の機会もあります。

カリキュラム・ディレクターからごあいさつ

シライケイタ

座・高円寺芸術監督

演出家、脚本家、俳優



劇場創造アカデミーは、その名の通り劇場の中に存在しています。これは、この国において極めて珍しい育成機関の在り方です。劇場の中にあるという特徴を最大限に生かしたカリキュラムを組んでおり、様々な角度から複層的に「演劇」というものを学ぶことができる場所です。

座・高円寺には一年を通じてあらゆる人々が入り出しています。演劇人はもちろん、演劇以外の芸術家、演劇を愛する観客、地元に住む親子、そして世界中の才能たち。とにかくあらゆる人々です。人が集まるところにはそれだけ出会いがあり、出会いの数だけ人々の想いや、人々の生きた歴史といったものが蓄積されていきます。その蓄積は磁力を生み、さらに魅力的な人や作品を集めます。つまりこの座・高円寺は、刺激と魅力と才能を集める磁場としての役割を果たしています。どうです？ この劇場で学ぶと想像するだけで、ワクワクしませんか？

「あらゆる人々」の中にはもちろん劇場創造アカデミーで学ぶ皆さんも含まれています。皆さんの演劇人としての輝かしきキャリアを、座・高円寺からスタートしませんか？ 沢山の才能との出会いを心待ちにしています。

シライケイタ（しらい・けいた）昭和 49（1974）年生まれ。蜷川幸雄演出『ロミオとジュリエット』のパリス役で俳優デビュー。その後、野田秀樹、木村光一、鐘下辰男など、数々の演出家の舞台に出演。平成 22 年、劇団温泉ドラゴン旗揚げ公演に、自らの初戯曲となる『escape』を提供。以降、同劇団内外で数々の脚本・演出を手掛ける。2013 年、文化庁・一般社団法人日本演出者協会主催「若手演出家コンクール 2013」にて優秀賞と観客賞を受賞。2017 年、第 25 回読売演劇大賞において杉村春子賞を受賞。日本演出者協会理事長。日韓演劇交流センター会長。

コース紹介



演技コース

俳優・パフォーマー・ワークショップリーダーとしてのちからを培う

俳優、俳優トレーナー、ワークショップリーダーを目指す人を対象としたコース。他のコースの受講生と共に、表現者としての身体づくりをはじめ、さまざまな視点から演技の基礎と考え方を学びます。2年目は、より実践的なカリキュラムによる研修で、演技者・表現者として自分で考え行動できる、自立した俳優・パフォーマーとしての能力を身につけます。また俳優自ら企画書を書き、助成金を申請して自分の出演する舞台を作り出す能力を培えるのも劇場創造アカデミーの特徴です。

修了後は…

芸能事務所やカンパニー所属の俳優のほか、上演ユニットの立ち上げ、ワークショップファシリテーターなど、俳優としての技術と個性を生かした活動が期待できます。



舞台演出コース

演出・劇作家・ドラマトルク・舞台美術・劇場技術について学ぶ

演出、劇作家、演劇作家、ドラマトルク、舞台美術、劇場技術スタッフを目指す人を対象としたコース。幅広く舞台芸術について学ぶとともに演出手法、WS開発、稽古場での創作プロセスについて学びます。2年目には、演出プランやコンセプトを他者に伝える能力を養うとともに、演技コースの演習に演出部として参加することで、スタッフワークを実践的に学べます。全国的に舞台演出を専門的に学べる教育機関は少なく、多彩な才能が毎年集まるのが特徴です。

修了後は…

演出家・劇作家・ドラマトルクとしての活動のほか、演出助手、舞台監督助手、美術・音響・照明スタッフ、劇団やユニットを立ち上げて活躍するなど、自分の資質と興味に合わせて幅広い活動が期待できます。



劇場環境コース

制作・劇場運営・地域社会と舞台芸術の相互活性化について学ぶ

劇団の制作者・企画制作・劇場運営、地域向けの活動を実践的に学びたい人を対象としたコース。公共・民間劇場の運営、上演作品やイベントのプロデュース、地域と劇場の関係性について学びます。2年目には、演技コースの演習にスタッフとして関わるほか、他劇場へのフィールドワーク、社会と演劇の接点、コミュニティデザイン、日本における舞台芸術の意義に関する考え方を深めます。杉並区にある公共劇場の実践に触れながらキャリアをスタートできるのが特徴です。

修了後は…

公共・民間劇場の運営スタッフのほか、作品の企画・プロデュース、演劇・舞台芸術を社会につなげるアウトリーチ活動、研究者など、幅広い分野での活動が期待できます。

***2024年度は講義のみコースの募集はございません。**

受講生特典

■座・高円寺の主催・提携公演の、舞台稽古（ゲネプロ）または本公演（年間30作品程度）を無料で観劇することができます。※レポート提出あり

■日本劇作家協会が主催する「戯曲セミナー」（年30回程度）に、聴講生として参加することができます。※アカデミー1年目対象、人数限定、添削授業への参加は不可。参加者は運営の手伝いもします。※特殊な事情による変更、オンライン開催になった場合はこの限りではありませんので、ご了承ください。

■修了後も学び直しをしたい時は、アカデミーの授業を単科受講することができます（有料）。※受講できる科目については予め相談が必要です。

カリキュラム

1年目の
カリキュラム

基礎課程

選択したコースに関わらず、研修生全員が同一のカリキュラムを受講します。演劇や劇場に対する基本的な考え方を身につけ、俳優とスタッフが互いの役割を理解し合うことが目的です。

実技では、台本の読み方、セリフの覚え方、役へのアプローチ方法をはじめ、能・狂言や合気道など伝統的な身体技法、ダンスや台詞に頼らない身体表現方法まで、様々な演技手法を学びます。

講義では、国内外の最先端の舞台作品から伝統演劇まで幅広く舞台芸術について学ぶ一方、テキスト解説やドラマトゥルク論を通して演劇言語の特性や現代性について考えます。また舞台映像や舞台美術についても、専門的な技術への理解や舞台表現の可能性を探るWSを通じて学ぶことができます。そのほか、劇場の社会的な役割をまちづくりやメセナとの関係など、基礎知識とともに最新の傾向や第一線の仕事についても理解を深めます。

一年の締め括りには、研修生自身の問題意識をもとに企画を立て、その成果発表を行います。

2年目の
カリキュラム

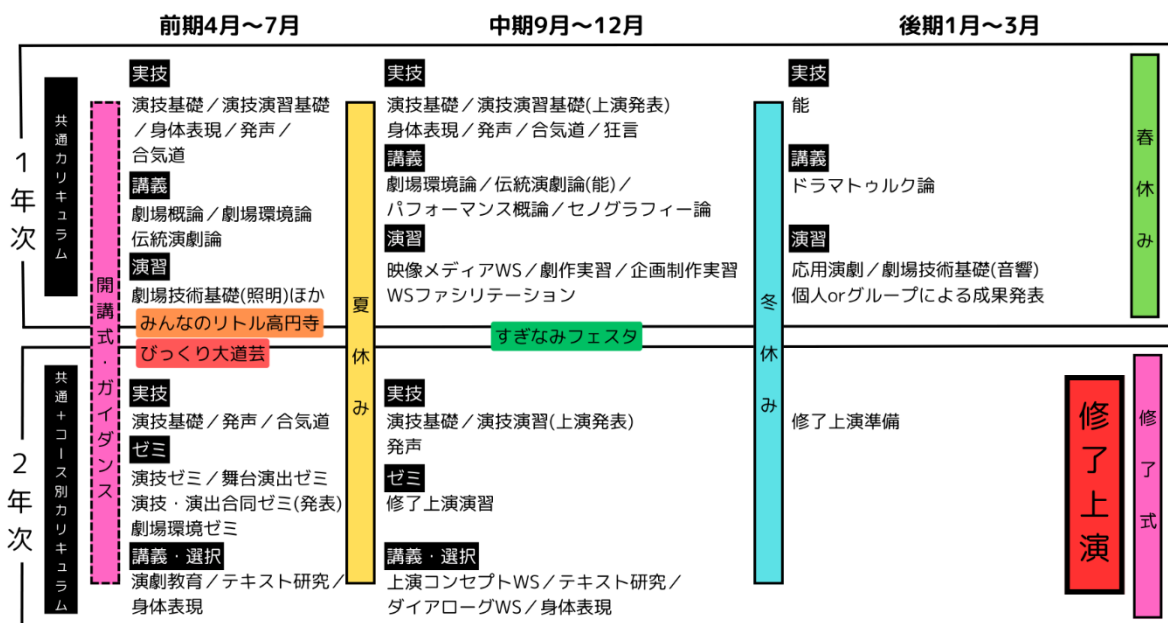
専門課程

演技・舞台演出・劇場環境のコースごとに、ゼミ形式の授業を行ないます。1年目の研修を基礎に、それぞれの分野で活動していくための知識と技術を学ぶことが目的です。カリキュラムは、ゼミ、必修（主に実技・発表）、選択に分かれています。

ゼミでは、演技・演出・制作の各現場における具体的な作業の指導とともに、各々の作業の前提となる考え方が身につくような授業を行います。

また公共劇場をはじめ、劇場という場に関する理解を深めるために演劇的手法を応用したアプローチや運営方法、さらに〈劇場人〉としてさらに広く活動してゆく為に必要なスキルや知見を学びます。

必修としてスタジオ・パフォーマンスを行う「演技演習」のほか、選択科目としてワークショップを企画・提案・実行する「演劇教育演習」、全国各地の劇場にフィールドワークをおこない社会デザイン的な分析をする「劇場環境実践論」などがあります。



※劇場創造アカデミーでは、通常のカリキュラムの他にも劇場で行っている様々な事業に、研修または任意のボランティアスタッフとして参加する機会を提供しています。こうした実践機会を通じて、演劇鑑賞の場に留まらない次世代型の劇場の在り方や、街と劇場の関係の在り方やアプローチの方法について向き合います。〈コミュニティー・シアター〉として実践を重ねる座・高円寺ならでの実践を通して、本校独自の視点を養います。

1年目の主なカリキュラム

【実技】 ※カリキュラム及び講師は年度によって異なる場合があります。

演技基礎／演技演習基礎 I

2024年度より内容を変えて開講。俳優の演技の基本となる方法論、基礎技術の習得を目的とした演習です。

講師：日澤雄介（演出家、俳優、劇団チョコレートケーキ主宰）

稽古方法と、稽古場に関する昨今の舞台芸術における課題を例にあげながら、創作に入る前の準備方法について個々の資質に合わせてじっくり向き合っていきます。

講師：竹中香子（プロデューサー・俳優・日仏通訳・演劇教育）

演技演習基礎 II *上演発表あり

脚本の読み方、役へのアプローチ、台詞と即興する身体の解放と集中から舞台稽古まで、実践的なレッスンを目ざします。テキストを選び、一本の芝居あるいはいくつかのシーンを立ち上げ、最終日には上演スタイルで成果発表します。

講師：木野花（俳優・演出家）

身体表現 I

ヨガ、ピラティスなどを通して筋肉、関節の自覚を高めていきます。また、自然運動を主にした運動を通して、自身の身体性を自覚し、身体を調整する能力、制御する能力、そして空間知覚能力などを高めます。

講師：竹屋啓子（ダンサー、振付家、ダンス01代表）

合気道

仕手（技を掛ける）と受け（技を受ける）を通して基本動作を稽古します。円滑な身体運動能力とともに、自己を律すること、相手に向き合う精神を学びます。（*二学年合同授業）

講師：清水健太（天道流合気道天道館道場長）

発声 I

「腹式呼吸による発声」「歌を楽しんで歌う」「自分で歌を作る」「身体を動かしながら声を出す」ということを軸に、ワークショップ形式で行います。（*二学年合同授業）

講師：伊藤和美（ヴォイストレーナー）

発声 II

基本的な考え方を換え、自分で自分の声や呼吸の状態を把握できるようにすること＝トラブルの事前回避・役作りへの反映が出来ることを目的とします。（*二学年合同授業）

講師：新田恵（ヴォイストレーナー）

応用演劇 WS

人々と演劇の関係を拡張し、演劇のもう一つの可能性を探求する領域とも言える応用演劇について、ここではその広がりを知り、特に代表的な思想であり方法論である「被抑圧者の演劇」について、一部実技を伴う形で考察します。

講師：花崎攝（シアター・プラクティショナー）

身体表現 II

台詞に頼らない身体の表現を探します。自分から発せられるものと自分の感覚との誤差、自分のイメージする動きを再現出来る身体、止まれる身体など自由な身体を探ってゆきます。台詞に頼らない身体の表現を探します。

講師：小野寺修二（演出家、振付家、カンパニーデラシネラ主宰）

能

能において身体はどのように使われるのでしょうか。身体の中の、左と右、前と後ろ、上と下、内と外、骨と肉、面（めん）と面（つら）など、対の要素が、それぞれにブレーキとアクセルを同時に踏み込んで、舞台の星間物質となり、波動が送られ、男と女、神と鬼、彼岸と此岸などに、また対します。

講師：清水寛二（能役者）



※上記以外も開講予定。

【講義】

パフォーマンス概論

現代演劇、ダンスなど、パフォーマンスな芸術活動についての概要を学びます。古代ギリシアのトラゲディア・コメディアから現代演劇までの、さまざまな演劇の実態について、現代演劇の具体的な事例を紹介しつつ分析・解析してゆきます。

講師：内野儀（演劇批評家、学習院女子大学教授）

佐々木敦（思想家、HEADZ 主宰、文学ムック「ことばと」編集長）

伝統演劇論

前代の文化を根絶やしにしない。そこにこそ日本人と日本人の美意識がある。日本と日本人が守り、育ててきた伝統芸能の「歌舞伎」を中心に、日本人にとって「伝統芸能」とは何か、何をもたらしてきたのかといったことを考えます。

講師：犬丸 治（演劇評論家）

劇場環境論

劇場運営・経営に欠かすことのできない環境としての「公共性」を意識することをめざします。ゲストスピーカーによる具体的な現場実践事例の紹介、受講者との質疑等を通じて「知の再編集」を試みてゆきます。

講師：中村陽一（立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授）



公開講座「パフォーマンス概論・鼎談」

映像メディア WS

舞台芸術と映像、デジタルテクノロジーを組み合わせることで、どのような演出効果を生み出すのかを、作品の事例を映像で見ながら、映像やテクノロジーを使う演出意図を探り、作家性、作品の強度といった普遍的なテーマを追求します。

講師：飯名尚人（映像作家、Dance and Media Japan 主宰）

セノグラフィ論

セノグラフィ（劇場や舞台の空間構造は、作品の意味に影響することを鑑み、舞台空間を考察すること）を学びます。主にヨーロッパの現代演劇、ダンス、サーカス、大道芸を例にとって、演出とセノグラフィの関係、劇空間が持つ重層的な意味を探ってゆきます。

講師：藤井慎太郎（早稲田大学文学学術院教授）

演劇概論

日本の演劇に圧倒的に足りないと思われる、歴史と理論の二つに主眼をおいて行います。歴史という言葉がなぜ、いかに立ち上がっていったのかを、実践へと介入するための理論を構築するために行います。アジア、革命、アヴァンギャルド、実験、民衆、在日、LGBT など様々なテーマを元に歴史を読み込んでいきます。

講師：高橋宏幸（演劇批評家、桐朋学園芸術短期大学演劇専攻准教授）



※上記以外も開講予定。講義については、一部公開講座として一般の方にも公開します。該当の講座については、実施前に HP でお知らせ致します

2年目の主なカリキュラム

【ゼミ】主な授業 ※カリキュラム内容及び講師は年度によって異なる場合があります。

演技ゼミ

2024年度より内容を変えて開講。第一線の現場で求められる演技技術について、丁寧に向き合うゼミを予定しています。

講師：シライケイタ（演出家、脚本家、俳優）

劇場環境ゼミ

非営利組織のマネジメントに関する文献講読を軸に、発表とディスカッションを行うとともに、劇場法など劇場環境をめぐるトピックについて討議し、提言をまとめます。

講師：高宮知数（マーケティング・プロデューサー）

【必修】

演技・演出合同ゼミ *上演発表あり

1年次の後期成果発表での経験を活かし、生徒による自主創作をおこないます。前半は構想段階からディスカッションを重ね、実現可能な企画になるよう、後半は各グループのコンセプトがスタッフワークやパフォーマンスと結びつくよう、アドバイスを受けながら作品発表まで仕上げていきます。

講師：生田萬（劇作家、演出家）

【選択】

劇場環境実践論

“公共性”という概念に焦点を当てた授業を展開します。公共性が展開する場となる“公共圏”の新たな担い手として現代社会に登場した社会的諸組織（NPO/NGO、ボランティアな市民組織など）に着目し、それらを含んだ地域社会のなかで劇場という場を持つ意味と可能性、課題を考察します。

講師：中村陽一（社会デザイン学会会長、青森中央学院大学特任教授）

演劇教育演習

1年次の「ワークショップ・ファシリテーション」に引き続き、ウォームアップやアイスブレイクのための簡単なゲームをファシリテートすることを学びつつ、演劇ワークショップに関する文献講読、劇場や地域、学校などでのフィールドワークや実習を行います。

講師：高尾隆（東京工業大学教授）

【修了上演】

舞台芸術の専門家を目指し、座・高円寺で2年間学んだ「劇場創造アカデミー」の生徒たちによる学びの集大成として、座・高円寺の主催公演として、修了上演を行います。修了上演を終えたアカデミー生は、俳優としてさらに活動の幅を広げたり、劇団を結成し独自の活動を始めたり、あるいは劇場スタッフとして活躍したりと、劇場創造アカデミーで培った力を発揮し国内外で活躍し続けています。



舞台演出ゼミ

舞台表現における「演出」の意味を、舞台芸術の再定義という観点からとらえ直すとともに、演出における実際的な作業工程を知り、体験する演習です。

講師：松本修（演出家、俳優）

演技演習 *上演発表あり

戯曲の読み方、役へのアプローチ、台詞と身体に対する方法論から舞台稽古まで、実践的な試行錯誤を経て上演化を目指します。舞台演出コースと劇場環境コースのメンバーが演出部として参加。スタッフワークの具体的な作業プロセスに立ち会いつつ、より具体的な作品づくりの現場を学びます。

講師：宮崎玲奈（劇作家、演出家、ムニ主宰）

[フィールドワーク]

社会デザインの視点から劇場運営や表現活動を考える授業「劇場環境実践論」（講師・中村陽一）の一環として、夏休み中（7月から8月）に2泊3日で地方の公共施設の見学をしています。2019年度は、京都市にて各劇場を訪問見学、2023年度は静岡県舞台芸術センター（SPAC）にて開催。

劇作実習

いくつかの戯曲作品の断片を読み、その面白さ、戯曲の可能性について考えます。写真や映像作品などの課題をきっかけにして、モノログや会話のせりふを創作し、受講生で読み合わせをし、合評します。

講師：松田正隆（劇作家、演出家） *2024年度は1年次授業として開催

授業以外の活動やイベント

カリキュラムの他に、〈毎週木曜日の午後〉は、ホームルームやカリキュラム・ディレクターとの歓談、生徒が自主的に立ち上げたイベントなどをおこないます。例えば、舞台映像や映画の上映会、修了生との交流会やWSなど、自分たちで考えた企画を、事前にスケジュールを調整し交渉して実現していくことも、日常的な学習の機会となります。

また劇場研修では、観客の一番近くで働くフロント・スタッフや、2階のカフェでの仕事、町と一体となって盛り上げる高円寺の恒例行事「高円寺びっくり大道芸」や「高円寺演芸まつり」、子どもを軸とした劇場開館から続く「みんなの作業場」（ワークショップ）、「絵本の旅@カフェ」（絵本の読み聞かせ）、劇場を子どもたちの遊び場に変身させるゴールデンウィークの「みんなのリトル高円寺」、生活と劇場をつなぐ「座の市」（フードマーケット）などに参加。地域の中の劇場の役割について、実際にその中に身を置きながら考える機会としています。



↑地下3階 けいこ場前ラウンジ



↑みんなの作業場



↑みんなのリトル高円寺



↑高円寺びっくり大道芸



↑11月/すぎなみフェスタ



↑12月/納会

主な講師

■演技ゼミ

シライケイタ (しらい・けいた) 演出家、脚本家、俳優
2010年、自らの初戯曲となる『escape』を上演し、劇団温泉ドラゴン旗揚げ。以降、同劇団内外で数々の脚本・演出を手掛ける。座・高円寺芸術監督。日本演出者協会理事。日韓演劇交流センター会長。

■演技・演出合同ゼミ

生田萬 (いくた・よろず) 劇作家、演出家
1981年に「ブリキの自衛団」を結成。「小劇場ブーム」の中心劇団のひとつとして高い評価を得、銀粉蝶、片桐はいりなどを輩出する。代表作に『夜の子供』など。TBS「世界遺産」構成作家、キラリ☆ふじみ芸術監督などを歴任。

■演技演習基礎Ⅱ (上演発表あり)

木野花 (きの・はな) 俳優、演出家
1974年に女性だけの劇団「青い鳥」を結成。80年代の小劇場ブームの旗手的な存在となる。同劇団を退団後は女優・演出家として活躍する一方、若手俳優の育成にも力を注いでいる。

■舞台演出ゼミ

松本修 (まつもと・おさむ) 演出家、俳優
1955年、札幌市生まれ。文学座の俳優を経て、89年に演劇集団MODEを設立。チェーフ、ベケット、ワイルダー等の海外戯曲を独自のワークショップで再読・再構成し上演。2000年代はカフカの小説を多数舞台化している。

■演技基礎／演技演習基礎

日澤雄介 (ひさわ・ゆうすけ) 演出家、俳優、劇団チョコレートケーキ主宰
2000年に劇団チョコレートケーキを旗揚げ。2010年より演出としても参加し、現在に至るまで劇団全作品の演出を務める。俳優に飾らせないストレートな演出は、淡々としながらも重厚な作品世界を体感できる空間を打ち出す。2014年、2018年、2022年に読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。

竹中香子 (たけなか・きょうこ) プロデューサー、俳優、日仏通訳、演劇教育
日本人としてはじめてフランスの国立高等演劇学校の俳優セクションに合格。フランス俳優国家資格とフランス演劇教育者国家資格を取得。パリを拠点に、フランス国公立劇場を中心に多数の舞台に出演。主な出演作に、市原佐都子作・演出『妖精の問題』『Madama Butterfly』『Madame Chrysanthemum』、太田信吾作・演出『最後の芸者たち』。

立本夏山 (たちもと・かざん) 俳優、演出家、人間劇場主宰
ゲーテ、ドストエフスキー、アルト、夢野久作など多くの文学作品を一人芝居で舞台化。2016年アヴィニオン演劇祭でアンジェリカ・リデル演出作品に出演し、その後世界各国を巡演。2023年にはイタリアでダンテの神曲・地獄篇を元にしたひとり芝居「inferno」を上演した。

■演技演習 (上演発表あり)

宮崎玲奈 (みやざき・れな) 劇作家、演出家、ムニ主宰
高知県生まれ。明治大学在学中に演劇学校無隣館に通い、2017年ムニを旗揚げ。青年団演出部に所属した。第11回せんがわ劇場演劇コンクールにて『真昼森を抜ける』で演出家賞。大学卒業制作の『須磨浦旅行譚』が令和元年度北海道戯曲賞最終候補。その他の作品に『ことばにない』など。

■身体表現

竹屋啓子 (たけや・けいこ) ダンサー、振付家、ダンスO1代表
マーサ・グラハム・カンパニーのメンバーとして活動後、日本のモダンダンス界のリーダーの一人として活躍。ダンス東風企画(1989～2001)としてアジアの芸術家との共同創作、両国上演を行う。その他海外公演多数。芸術選奨文部大臣新人賞など受賞。

小野寺修二 (おのでら・しゅうじ) 演出家、振付家
1995年パフォーマンスシアター「水と油」を結成。全作品の構成演出に関わる。2008年から「カンパニーデラシネラ」を主宰。振付家・パフォーマーとして活動の場を広げている。

下司尚実 (しもつかさ・なおみ) 振付家、演出家、ダンサー
自由形ユニット“泥棒対策ライト”主宰。物語に寄り添った身体表現が評価され多くの作品で振付・ステージング参加をし、近年ではミュージカルを演出するなど活動は多岐に渡る。東京パラリンピック閉会式ではAFTERTHEGAMESを担当。

■発声Ⅰ

伊藤和美 (いとう・かずみ) ヴォイストレーナー
演劇やオペラのスタッフを務める傍ら、06年まで「時々自動」に作曲、パフォーマーとして参加。05年度文化庁派遣在外研修生として1年間渡英。現在、新国立劇場演劇研修所講師。

■発声Ⅱ

新田恵 (にった・めぐみ) ヴォイストレーナー
国立音楽大学声楽科卒。オペラ、ミュージカル、ミサ曲、レクイエム等の宗教音楽、ベートーベンの第九のソリストを務める。スーパーエキセントリックシアター、青年座、東宝芸能、加藤健一事務所、多摩美術大学、舞台芸術学院等で歌唱指導及び後進の指導にあたる。現在、東京アニメーションカレッジ専門学校、すみだ水族館、新江ノ島水族館などで講師を担当。

■能

清水寛二 (しみず・かんじ) 能役者
1953年生まれ。鏡仙会会員。山本順之・観世寿夫・八世観世鏡之丞・九世観世鏡之丞らに師事。佐藤信演出・Danny Yung 演出『The Spirits Play 霊儀』などにも参加。2018年「青山実験工房」を始める。東京藝術大学非常勤講師。

■合気道

清水健太 (しみず・けんた) 天道流合気道天道館道場長
管長の清水健二は合気道創始者植芝盛平氏の内弟子として修行後1969年に独立。1982年に天道流合気道を創設。後進の育成・指導にあたるとともに、ドイツなど海外でも合気道の普及に務める。

■WSファシリテーション／演劇教育

高尾隆 (たかお・たかし) 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授
1974年生まれ。東京工業大学教授。インプロ(即興演劇)創始者の一人、ジョンストンに学び、即興俳優、ファシリテーターとして活動。

■応用演劇WS

花崎攝 (はなさき・せつ) シアター・プラクティショナー
黒テントを経て2010年から1年間渡英、応用演劇の理論と実践を学ぶ。障碍のある人たちの演劇活動、先住民の若者と環境を考えるプロジェクト(フィリピン)など国内外で継続中。演劇は具体的に人々をつなぎ、一緒に課題を見つめて表現し伝え合う媒体であると考えている。

■劇場技術論基礎Ⅰ（照明）*LDC-J会員で担当

※本講座講師はLDCJ（ライティング・デザイナーズ・クラブ・オブ・ジャパン）会員が務めます
齋藤茂男（さいとう・しげお）照明家、LDC-J会員
演出家の佐藤信や串田和美、白井晃等との仕事多数。劇場創造アカデミー第1期修了上演から携わる。主な作品に『リア』（佐藤信）、『マホニー市の興亡』（白井晃）、『メトロポリス』（串田和美）など。

服部基（はっとり・もとい）照明家、LDC-J会員
こまつ座をはじめ演劇、ミュージカル、オペラ、能とひろく舞台照明を手がける。

■劇場技術論基礎Ⅱ（音響）

藤田赤目（ふじた・あかめ）舞台音響
名古屋市出身。北村想、竹内統一郎、生田萬、岩松了、鄭義信、渡辺えり、松尾スズキら、現代演劇の音響プランの仕事が多い。日本舞台音響家協会理事。

■舞台美術WS

大島広子（おおしま・ひろこ）舞台美術家
セントラル・セント・マーティンズ美術学校、シアターデザインコース卒業。帰国後、大道会会社勤務を経て、東京を拠点に舞台装置、衣裳デザイナーとして活動。『ユビュ王』衣裳プラン（小川絵梨子演出/まつもと市民芸術館）に対して、2015年度伊藤嘉彦賞奨励賞を受賞。近年の主な作品に「検察側の証人」「スルース」「願いがかなうぐつぐつカクテル」など。

■映像メディアWS

飯名尚人（いいな・なおと）ダンス・アンド・メディア・ジャパン主宰
映像作家、演出家、ドラマトゥルク、プロデューサーとして幅広く活動。映像作家として佐藤信『The Sprits Play 霊戯』『リア王』、川口隆夫『a perfect life』に参加。ドラマトゥルクとして川口隆夫『大野一雄について』『Touch of the other』に参加。演出家として『ASYL』『熱風』などジャンル横断的作品を演出。メディアテクノロジーとダンスを融合するプロジェクトを推進するためDance and Media Japanを設立。国際ダンス映画祭プロデューサー。東京造形大学、京都精華大学で教える。

■演劇概論

高橋宏幸（たかはし・ひろゆき）演劇批評家、桐朋学園芸術短期大学演劇専攻准教授
岐阜県生まれ。編著に『国を越えてアジアの芸術』。「図書新聞」、「テアトロ」にて舞台評の連載。評論に「プレ・アンダーグラウンド演劇と60年安保」、「原爆演劇と原発演劇」など多数。

■パフォーマンス概論

内野儀（うちの・ただし）演劇批評家、学習院女子大学教授
日米の現代演劇を中心に、研究批評活動を展開。著書に『メロドラマの逆襲』『メロドラマからパフォーマンスへ』『Crucible Bodies』『「J」演劇の場所』など。

佐々木敦（ささき・あつし）思想家、HEADZ 主宰、文学ムック「ことばと」編集長
芸術文化の複数ジャンルで長年にわたり批評活動を展開。2020年には『これは小説ではない』『それを小説と呼ぶ』『小さな演劇の大きさについて』など五冊の著書を刊行。

■伝統演劇論

竹本幹夫（たけもと・みきお）能楽研究者
1948年東京生まれ。早稲田大学名誉教授。博士（文学）。能楽研究者。1980年実践女子大学専任講師のち助教授を経て、1987年より早稲田大学文学部助教授のち教授（～2019年3月）。2004年、同大演劇博物館館長（～2012）。著書に『観阿弥・世阿弥時代の能楽』（明治書院1999）、『風姿花伝・三道』（角川書店2009）、『対訳シリーズ』（槍書店2000年～）など。

犬丸治（いぬまる・おさむ）演劇評論家
「読売新聞」「テアトロ」等に歌舞伎劇評を執筆。2020年より読売演劇大賞選考委員。著書に「平成の藝談—歌舞伎の真髓にふれる—」（岩波新書）など。歌舞伎学会副会長。

■演技論史

横山義志（よこやま・よしじ）ドラマトゥルク・舞台芸術研究
バリ第10大学演劇科で博士号取得。SPAC-静岡県舞台芸術センター文芸部、学習院大学非常勤講師。30カ国以上を視察し、次代の舞台芸術の枠組みを考えるため、西洋演劇史論を執筆中。

■劇場環境論／劇場環境ゼミ

中村陽一（なかむら・よういち）立教大学名誉教授、東京大学特任教授、社会デザイン学会会長
80年代半ばより市民活動・NPO/NGOの実践的研究、基盤整備、政策提言に取り組む。民学産官協働によるまちづくり、社会デザインの専門家としてSB/CB、CSR、SDGs、ESG投資等をカバー。ニッポン放送「おしゃべりラボ～しあわせ Social Design」パーソナリティ。ジャズライブでのリーディングや演劇プロデュースも。東京芸術劇場運営委員。専門分野は、社会デザイン学、ソーシャルビジネス、コミュニティデザイン、NPO/市民活動論他。

高宮知数（たかみや・ともかず）マーケティング・プロデューサー
広告代理店マーケティング部門、シアターアプルプロデューサーを経て独立。久留米シティプラザ初代館長、パルテノン多摩大規模改修／再開館に関する多摩市アドバイザー等を務める。立教大学社会デザイン研究科兼任講師。NPO 法人文化の居場所研究所代表理事。

■企画制作実習

植松祐子（うえまつ・ゆうこ）制作者、合同会社 syuzgen 代表社員
フェスティバル/トーキョー制作、制作統括を経て、フリーランスの制作としてさまざまな劇場・組織・劇団と協働。舞台芸術の制作者人材育成と雇用環境整備のための中間支援組織「NPO 法人法人 Expat」の立ち上げにも関わり、現在理事長も務める。

■特別授業ほか

堀尾幸男（ほりお・ゆきお）舞台美術家
大型商業演劇を中心に作品を展開。多少片寄って仕事をしているが、本人の志は幅広くして、深い造形を目指すにある。近年の作品に、志村魂『バカ殿様』、明石家さんま出演『七人くらの兵士』、劇団☆新感線『闇囃城の七人』など。第24回読売演劇賞・大賞他受賞。

鴻英良（おおとり・ひでなが）演劇批評家
1948年生まれ。2002年から04年までドイツの国際演劇祭ラオコオン（カンパナーゲル、ハンブルグ）の芸術監督を務める。著書に『二十世紀劇場—歴史としての芸術と世界』（朝日新聞社）、訳書にカントール『芸術家よ、くたばれ!』（作品社）など。

（2023年12月1日現在）

修了生の活動

劇場創造アカデミーでは各地の劇場や演劇活動との繋がりを活かして、在学中から修了後の活動まで様々なサポートをしています。座・高円寺から生まれ全国に広がっているネットワークを通して、あなた自身が一番クリエイティブな活動ができる〈場〉への道筋を見つける機会を提供します。

【劇場／ホール・団体】

- いわき芸術文化交流館アリオス
- 城崎国際アートセンター
- 久留米シティプラザ
- 株式会社シアター・ワークショップ
- ジャパン・ソサエティー (NY)
- 杉並区立杉並芸術会館／座・高円寺
- 世田谷パブリックシアター WS ラボ研究員
- たちかわ創造舎
- 東京芸術劇場
- 新居浜市総合文化施設あかがねミュージアム
- 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会
- PARADICE AIR
- 東大阪市文化創造館
- 株式会社ファイブ・ミニッツ
- 穂の国とよはし芸術劇場P L A T
- 山口情報芸術センター
- 株式会社吉住モータース
- 若葉町ウオーフ

【所属劇団・団体】

- かけっこ角砂糖δ
- 劇団黒テント
- 重力／Note
- 劇団短距離男道ミサイル
- ダンス01 (研修生)
- 劇団フーダニット

【所属事務所】

- M.M.P
- 岡村本舗
- 有限会社現代制作舎
- 有限会社さかがみ企画
- スターダス・21
- ストローハウス
- 株式会社長谷川事務所
- ミズキ事務所
- 株式会社 nora

【結成団体・ユニット】

- 亜細亜の骨 (台湾)
- 演劇ユニット noyR-ノイル-
- ゲッコーパレード／旧加藤家住宅 (埼玉)
- 劇団ドクトペッパズ
- さながら
- トマソンのマツリを考える会
- 250km 圏内 (愛媛)
- Plant M (大阪)
- プリズマン
- BEBERICA theatre company (京都)
- Radico Theatre
- 回人回製作所
- カハタレ
- 三人之会
- 人間の条件
- あくびがうつる

【座・高円寺】

- 修了上演／CTA ラボ
- 主催公演『ピン・ポン』『ふたごの星』『フランドン農学校の豚』 (出演・スタッフほか)

修了生からのメッセージ

Chika Oura

大浦 千佳

2期・演技コース



1988年大阪府生まれ。近畿大学文芸学部舞台芸術専攻卒業後に上京し、劇場創造アカデミーに入学。アカデミー研修中に役者を本気で志す。現在、株式会社 nora に所属しながら、チーズ theater の劇団員としても活動中。鰻と演劇と合気道が生きがい。

* * *

座・高円寺劇場創造アカデミーの2年間は、大好きな演劇が嫌いになる程の時間を過ごしました（笑）。演劇とは、劇場とは、お芝居とは、社会と演劇とは、言葉を発するとは……当時の私からすると、抱えきれない程の多くの授業内容。多様な人材の集まりでの集団創作やディスカッション、今ではよく耳にする多様性を受け入れる場面も多々。アカデミー授業以外は、生活のためにバイトをする……壮絶でした、今となってはよくやっていたなと（笑）。

でも、当時のアカデミーの2年間があったからこそ、雑草魂と言いますか、本当の意味で、自分の人生を懸けてでもやりたい演劇に出会えました。人生を懸けては大袈裟かも知れませんが、やりたいことを仕事にするにはと、本気で考え自問自答した日々は今となっては宝物であり財産です。

演劇をやることは、まず生きること。

きっと何かが芽生える、そんな環境です。

是非挑戦してみてください。

ZR

ZR

12期・舞台演出コース



1998年生まれ。東京大学教養学部卒。2019年に「人間の条件」を旗揚げ、「それなしには人間が生きていくことのできないもの」をテーマに活動中。

2023年には若手演劇人による歌舞伎の翻案作品を上演する演劇祭「条件の演劇祭 vol. 1 -Kabuki」を主催・フェスティバルディレクターを務めた。

* * *

アカデミーが私に与えてくれたのは、何よりも人だと思う。

アカデミーでは三種類の人々と出会うことができる。

一つは講師陣。

物を見る視野を広げ、多様な角度から「演劇」という営みを見ることを可能にしてくれる。自分たちの目指すところへの行き方（そのもの、というよりもそのための考え方）や演劇人としての範を示してくれる。

二つ目は劇場人。

劇場で働き、劇場を考え、演劇と地域を劇場によってつなぐ仕事を間近に見ることができる。

三つ目はアカデミー生。

正解がないことを前提に行われる授業の中で、自分たちなりの最適解を共に考え導き出す、フラットなチームになることが求められる。

そのどれもが、アカデミーを出ては得難いものだと日々感じている。

座・高円寺 劇場創造アカデミー2024 年度生（第 14 期生）

募集要項

◆募集コース

演技コース [2 年制/俳優、ワークショップリーダーとしてのちからを培う]

舞台演出コース [2 年制/演出、ドラマトウルク、舞台美術、劇場技術について学ぶ]

劇場環境コース [2 年制/制作、劇場運営、地域社会と舞台芸術の相互活性化について学ぶ]

*2024 年度は、講義のみコースの募集はございません。

◆授業期間 2024 年 4 月 14 日～2026 年 3 月上旬（予定） 夏期・冬期・春期休暇あり

※基本的に 2 年間はアカデミーでの学びに専念してください。入学前から決まっていた仕事や、キャリアに通じる仕事への参加などについては、その都度、ご相談ください。

◆授業時間 月曜日～金曜日 10 時～12 時/13 時～15 時（1 日 2 コマの授業を受講）

※授業課題で自主稽古を行う場合は、15 時～18 時にけいこ場が利用できます。

※毎週木曜日の午後は、HR や生徒による自主イベント用に解放予定。

◆授業場所 座・高円寺 けいこ場（地下 3 階） 阿波おどりホール（地下 2 階）、天道館（三軒茶屋）他

※劇場外での授業の場合、交通費は自己負担となります。

◆募集人数 20 名程度

◇受付期間 **2023 年 12 月 18 日（月）～2024 年 1 月 22 日（月）必着**

◆入学金・受講料

1 年次 入学金 50,000 円・受講料 300,000 円

2 年次 受講料 300,000 円

※受講料納入は、年次ごとに「一括払い」「2 回払い（要誓約書の提出）」「分割払い（年 3～6 回/要誓約書の提出）」を選択することができます。なお 2 回払い以上は、回数×1,000 円の手数料が発生します（別途振込手数料）。

[杉並区民割引]

杉並区在住の方を対象に、1 年目受講料の 20%を免除いたします。

2024 年度アカデミー入所時に、杉並区に住民票がある方が対象になります。入学手続き時に住民票の写しを添えてご提出ください。

授業は全て日本語で行います。外国籍の方の場合、研修期間中の日本滞在許可が取得出来ることが応募条件となります。

申込手続き

【応募に必要な書類】

- 1) 受験申込書
- 2) 作文「10年後のわたし」のテーマで800字以内
- 3) 舞台芸術に関する経歴
- 4) 受験料の控えのコピー

※2)、3)の書類はA4横書きで提出のこと。原則、手書きでの提出は認められません。なお、提出いただいた書類は返却いたしません。

【受験料】5,000円 ※2023年12月25日(月)必着までの申し込みは受験料免除となります。

【受験料振込口座】 三菱東京UFJ銀行 高円寺支店(155) 普通 0007045
特定非営利活動法人 劇場創造ネットワーク 座・高円寺
トクヒ□ゲキジョウソウゾウネットワーク□ザコウエンジ

※受験者ご本人の名前でお振り込み下さい。受験料の納入は、申込書類の郵送期間を考慮して手続きを行ってください。
お振込いただいた受験料は、受験をとりやめた場合でも返金いたしません。

【申込書送付先】 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-1-2 座・高円寺 劇場創造アカデミー担当
※書留など記録の残る方法でご送付ください。

【申込期間】

2023年12月18日(月)～12月25日(月) 必着(受験料免除期間)

2023年12月26日(火)～2024年1月22日(月) 必着

【選考過程】

申込書類受付締切日：2024年1月22日(月) 必着



一次審査(書類選考)

選考結果：2024年1月25日(木) 通知予定。



二次審査(筆記試験・実技試験あり)：2024年2月23日(金)10:00～14:00 座・高円寺にて
結果通知：**2月26日(月)**に通知。合格者には、合格通知とともに入学手続きに必要な書類を郵送します。

【募集説明会】

一般入試の方を対象に、相談会と学校説明会を開催します(会場はともに座・高円寺、オンライン対応可)。

相談会：2023年12月23日(土)10:00～19:00(左の時間帯からご希望の時間を事前予約。所要時間は30分程度)

説明会：2024年1月8日(月)A11:00～12:00/B17:00～18:00(ご予約時にAかBをご選択ください)

●2024年度生募集に関するお問合せ(相談会・説明会のご予約)

座・高円寺 劇場創造アカデミー担当：鹿島 将介

Tel. 03-3223-7500 / Fax. 03-3223-7501 / Mail. academy@theatre-koenji.jp

HP: <https://za-koenji.jp/academyhp/>

主 催 … NPO 法人劇場創造ネットワーク／座・高円寺

提 携 … 東京学芸大学教育学部

協 力 … 一般社団法人日本劇作家協会 公益社団法人日本照明家協会

公益社団法人日本舞台音響家協会 いわき芸術文化交流館アリオス

まつもと市民芸術館 伊丹市立演劇ホール(アイホール) 北九州芸術劇場

後 援 … 杉並区